

自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2009. 9. 13 No. 5

北海道ボランティア・レンジャー協議会

秋の風情

—ススキ—

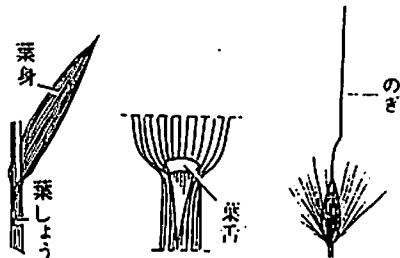
ススキの穂が風にゆれていてあきの気配を感じます。観察の対象にはあまりならないこの植物もこの時期は人の目を引きます。

イネ科のこの植物は多年草で、学名を *Miscanthus sinensis* で、mischos(穂) + anthos(花)、sinensis(中国) の意味です。ススキの「スス」は葉がまっすぐにすぐ立つことを表し「キ」は芽が萌えでる意味の「萌(キ)」だといわれていますが諸説があるそうです。

漢字名は「芒」で「薄」、「蕎」も漢字標記として使われていますし、「尾花」とも「茅」とも言われています。尾花は花穂が獣の尾に似ているから、茅は民家の茅葺き屋根に茎や葉を使ったところからきています。

ススキの方言「テキリグサ」は葉のふちに微小なノコギリ状の歯があり、ガラス質のケイ酸分を含むため、うっかりすると手をきることからきています。

ススキの葉や花穂のつきかたを右図をみながら観察してみるとイネ科の特徴を知ることができます。



- ・葉身…葉の広い部分
- ・葉しょう…細長い葉身と葉がついている節の部分が鞘状になっていて茎を包んでいる部分
- ・葉舌…葉鞘の上縁にある膜状の部分
- ・のぎ…小穂の先の剛毛状の突起。ススキはこのノギが途中で屈折します。

万葉集の詠まれた時代、山上憶良は次の歌を詠んでいます。

芽子(はぎ)の花 尾花 葛花 撫子の花 女郎花 また藤袴 朝顔の花

ススキは昔から日本の秋にはなくてはならない野草だったのでしょうか。与謝蕪村も次の句を残しています。

狐火の 燃えつくばかり 枯尾花

山は暮れ 野は黄昏の 芒(すすき)かな

10月の観察△予定

◆「秋の森の匂いをかごう」観察会

10月15日(木) 10:00~14:30 北海道開拓の村前 集合 昼食持参

葉が地表に沢山落ちています。その落ち葉からいろいろな匂いが漂ってきます。こうばしい匂い、ちょっとくせのある匂い等々さまざまです。そんな匂いの違いをさぐってみましょう。葉ばかりでなく、木の実の匂いも嗅いでみましょう。

似ている野草

◆エゾノコンギク、ユウゼンギク、ネバリノギク

この時期、公園内で上記の3種がみられます。3つ種の違いを観察してみましょう。

・エゾノコンギク

北海道と本州北部に分布していて、本州以南に分布するノコンギクの北方型です。茎は上部で分枝しています。葉は長楕円形で縁は荒い鋸歯があります。葉柄があり茎を抱かないで、やわらかい明るい感じです。舌状花は20個以下です。

・ユウゼンギク

葉は茎を抱き濃く光沢があります。全縁が低い鋸歯があります。舌状花は20個以上で、北アメリカが原産の帰化植物です。

・ネバリノギク

最近分布を広げています。北アメリカ原産ですが、栽培品が逸出したものです。茎や葉に腺毛があるので、さわるとベタベタします。

◆オオアワダチソウ、セイタカアワダチソウ

・オオアワダチソウ

北アメリカ原産の多年草です。枝の先を除いて全体が無毛です。明治の中頃、観賞用に導入され、各地で野生化しました。北海道ではセイタカアワダチソウより多いそうです。

・セイタカアワダチソウ

オオアワダチソウと同じく北アメリカ原産の多年草ですが、違いは茎や葉に剛毛がありざらつきます。花期はオオアワダチソウより遅い。

◆ヤブタバコ、ノッポロガンクビソウ

・ヤブタバコ

草丈は大きいもので、1mぐらいにもなり2年草です。茎頂から四方に長い枝をだします。この柄にほぼ無柄の筒状花をつけます。葉の裏側には多数の腺点があります。

・ノッポロガンクビソウ

ミヤマヤブタバコの近似種といわれていますが、ノッポロと名のつく種は公園内でこの種だけです。下部の葉は心形または切形となり、柄はひれとならないことです。



エゾノコンギク

鳥の渡り

春から夏にかけて見られる鳥を夏鳥、秋から冬に見られる鳥を冬鳥、春、秋の渡りの途中に日本に立ち寄る鳥を旅鳥、国内での短い距離の移動を行う鳥を漂鳥といいますが、この漂鳥も広義の意味では渡り鳥です。この時期、夏鳥は渡りを前にしてエネルギーを蓄えるため餌をとることに専念しています。

渡り鳥には日中渡る鳥と夜渡る鳥とがあります。日中渡る鳥は、ハクチョウ、ワシなどの大型の鳥が多く、太陽の位置によって渡っていく方角を決めると言われます。一方、小形の鳥はワシやタカなどの攻撃を避けるため夜渡ることが多く、星座の位置によって方角を感知すると言われています。